

日陪協ニユース

一般社団法人日本溶接協会
 〒101-0025
 東京都千代田区神田佐久間町4-20
 溶接会館
 電話：03-5823-6322

宮城工高の藤原選手が優勝

宮城県高等学校溶接技術競技大会

宮城県溶接協会(後向・V形突合せ溶接・藤原雄会長)は1月18日、ポリテクセンター宮城・名取美習場(宮城県名取市)で第9回宮城県高等学校溶接技術競技大会を開催した。「A12F」(下

向・V形突合せ溶接・裏当て金あり)の競技課題で行われ同大会には12校35人が参加。個人部門では藤原真澄選手(宮城県工業高校2年)が団体部門では気仙沼向洋高校がそれぞれ優勝に輝いた。

個人部門の準優勝が斎藤龍雅選手(白石高校2年)、3位に高橋理史選手(古川工業高校2年)と続いた。団体部門は準優勝が白石高校、3位は宮城県工業高校となった。

れ優勝に輝いた。

た。

大会に先立って挨拶

に夢中だった。



競技に取り組む藤原選手



優勝した藤原選手

出場を目指しているが、そのためには東北大会を勝ち抜く必要がある。きょうも100点満点のできてはなく、母材の角を溶かしてしまつミスもあった。また、作品展示の時にも、審査員から始端と終端を改善できるというアドバイスも貰った。きょうの反省を生かして、さらにレベルを上げたい」とさらなる高みを述べた。

団体部門では気仙沼向洋高校のメンバーは全員1年生ながら上級生を擁する学校も抑え優勝。ハイテク部に所属する同校のメンバーは「今回、出場したのは3人だが、ハイテク部では入部した時から1年生4人で切磋琢磨をしてきた。この優勝は4人の努力が実った結果だと思う」と胸を張った。

大会に出場するなど、当協会や学校関係者が種まきを行ってきた、その成果が若手への技能伝承という形で現れている。今後とも協力してほしい」と語った。

大会、唯一の女子と

優勝した藤原選手は「大会に向けて1カ月前から、1日1時間以上の練習を週6日のペースで進めてきた。先月、同会場で開催した溶接技術講習会で講師からビードの形を意識するように指摘され、そこを改善できたことも勝因の一つ」と語った。今後の目標について「全国ものづくりコンテスト・溶接部門の

なつた山口真矢選手(伊具高校2年)は同大会の出場を目指す校内有志の中から、同校に指導に来ているものづくりマイスターや教諭の選抜により出場。「ものづくりマイスターから指導を受けた、溶接技術の基礎部分は自分の中ではしっかりできた」と練習の成果を実感したようだ。

競技後は全国大会に出場経験のある東北三和銅器(宮城県柴田町)の溶接士連による「立向・半自動ガス溶接」と「横向・アーク溶接」(ともに裏当て金なし)のデモンストレーションによる溶接に加えて、生徒が同溶接法を体験できる時間が設けられた。生徒は熟練した溶接士の高度な技術に驚嘆するとともに、学校では普段やらない溶接法を試す機会に夢中だった。

半自動ガス溶接を初めて体験したという古山拓磨選手(村田高校2年)は「アーク溶接と違って溶接棒がななく、感覚が全然違った。ワイヤが自動供給されるので溶け込みが深くなりすぎないようにコントロールすることは大変。また、裏当て金もないので一層目からビードを引くのが難しかった。慣れた手つきで溶接するプロの溶接士は凄いと改めて思う」と述べた。